

# 自動車道路開設の機運

藤原俊雄

## 一 緒 論

我國の諸施設にして歐米諸國に比較して後れを取つて居る事柄は尠しとしないが就中其の施設が最も遅々として而も國家經濟上多大の損失を來して居るものは道路の改良であると信ずる。從來道路と言へば單に人の交通の爲に設けられるものであるといふが如き思想を以て車輛と言へば僅かに荷車馬車を通行せしむるものが道路であると一般に思はれて居つたが吾輩の茲に言ふ道路とは即ち自動車道路の謂である。今日歐米人の觀念を以つて言ふならば道路とは自動車を運轉する處であるといふことは一般の通念であつて我國に於ける所謂道路の觀念とは全然異つて居る。今日及び將來に互つて行はるべき我國の道路施設は方に歐米人のそれと同一なる意味を有たなければならぬと思ふ。

明治初年以來我國の交通機關としては鐵道の敷設が優勢であつたために道路の改良などは不必要であるといふ觀念が一般に普及した。斯くして全國に鐵道の敷設せられること一萬四千餘哩に

達するに及んで、我國のやうな山嶽の多き國に於ては陸上交通に道路を利用するが如きは不可能であるといふ思想を懐く人さへあるに至つたのである。併しながら歐米に於ては一九〇〇年に自動車の發明利用を見てより以來今日に至るまで三十餘年間に、全然其の交通運輸の状態を一變してしまつたのである。此の趨勢は漸次東洋にも波及し來つて、今や我國に於ても貨物の大小或は距離の長短に依つて、道路と鐵道とは共同運輸機關を爲すものとして、道路に依る自動車の利用を旺盛ならしめなければ、社會經濟は勿論國家の財政、國民の生活に及ぼすところの損失は多大なるものがあるのである。

今之れを適切なる實例を擧げて言ふならば、東京市内の道路が降雨ある毎に泥濘水田の如き状態を呈した時代に比べて、今日の如く舗装が施されたるが爲に、市民は如何に經濟的に若くは衛生的に利便を得て居るかといふことは、蓋し言を俟たない所である。往年日本最良の米國財政家ヴァンダーリップ氏が來朝した時分に東京市内の街路の泥濘脛を没する状態を見て、「日本では人口が増加して食糧品が缺乏して居ると聞いたが、東京市内の街路に稻を植ゑたら宜からう」と諷刺したとのことであるが、其の時代と今日の舗装道路とを比較するならば、殆んど隔世の觀があると謂はなければならぬ。さうして歩道に直面したる店舗にせよ、住宅にせよ、昔日の如く塵埃の飛來を見なくなつたことに依つて、或は商品の汚損を免かれ、或は人畜の衛生の上に、非常な利益を享けつゝあるといふことを痛感するであらう。

併しながら幼稚なる考への所有者は、今なほ道路の舗装は市街地に於てのみ爲すべきものであると思つて居るやうであるが、何ぞ圖らん、歐米に於ては田舎道に至るまで悉く舗装せられて居る。米國の如きは東ポストンより西シアトルに至るまで舗装道路が完全に貫通して居るのである。而して全米各州を通じて年々四億弗乃至八億弗を投じて道路の建設改良を爲すといふ事業が過去二十年来續いて居るといふ事實を見るならば、經濟思想に富んで居る彼等歐米人が何故に斯の如き莫大なる金を道路に費すかといふ理由は實に明瞭である。

我國では自動車が道路を破壊すると言つて、之に過大なる贅澤税を課せよといふやうな意見が朝野の間に今なほ力を得て居るやうに思はれるが、米國に於て道路が今言ふ如く改良せられつゝある其の反面には、自動車工業といふものが勃興して、今や世界第一位を占めて居る、即ち今日世界の自動車の八割七分までは亞米利加に於て製造せられるといふ盛況を呈し、自動車製造の某一大會社は年二億弗以上の純益を擧げて從來米國第一を誇つた製鐵會社の利益を遙に凌駕するやうになつたのは、取も直さず道路の開設と其の改良に努力した結果であると謂はなければならぬ。

自動車道路開設の急務を論ずるに當つては、之が日本に於ける自動車工業の發達と密接の關係あることは勿論であるが、更に現下の行詰れる我が社會經濟に當面せる問題として喧傳せられて居る外國觀光客誘致策、或は失業救濟策等の問題に對しても、此の自動車道路の問題が多大の關係を有することを感ずるのである。否、更に微より細に入つて之れを論ずれば、社會萬般の施設悉く道路に關

係せざるもの無しと謂ふことも出来るが、今は等二三の重要な觀察點より順を逐うて論じて見た  
5.

## 二 觀光客誘致策と自動車道路

近來政府は歐洲の某々國の施設を模倣して、外來觀光客を我國に誘致するの方策として、或は國際觀光局を設置し、或は民間に低利資金を融通してホテルの建設を助成する等、種々の計畫を進められて居る、これは貿易統計表に現はれざる所謂 Traveling Home の貿易を助長する一方策として必要な事であるけれども、唯二、三のホテルを拵へた位のことでは、外客誘致の目的を達することが出来ようとは考へられない。勿論我國の風光の美は世界に誇るに足るものがある。東京附近で言ふならば碓氷峠の夏の氣候や其の絶壁の景色は世界稀に見る所であり、其の他或は富士山麓、五湖附近の眺望の如き、奥多摩の絶壁の如き見るべき風光に乏しくないが、是等の地方には現に山中ホテル、或は精進湖ホテル等の設備もある。けれども、外國からわざわざ、是等のホテルに逗留に來る者があらうか。況んや猪苗代の湖水、十和田湖の水色を探ねて楽しむといふ風懷を有する外人は少いであらう。貧弱なるホテルの設備の如きもので到底外人を誘致することは出来ない。吾輩をして忌憚なく言はしむれば、觀光客誘致などいふ事を國民の間にあまりに鼓吹することは、寧ろ民心をして乞食根性化せしむるものではないか。現に歐洲に在つて外來觀光客を待ち受けつゝあるところの佛蘭西にせよ、伊

太利にせよ、將又瑞西にせよ、其の國民の氣風が所謂露店商人化して、外客誘致が反面に於ては民心の苟且偷安を助長し、大なる國民的産業の勃興する妨礙となつて居る事實に徴すれば明かである。

併しながら日本の如き明媚なる風光に富んで居る國が、外來觀光客に對して相當の設備を有して居ないといふ事は、今後の國際親善の意味に於ても甚だ遺憾なことであるから、適當なる施設の行はるゝことは吾輩固より之に反對する者ではない。けれども現在の如く交通不便の状態に在つて、わざわざ其の地方を踏査研究して始めて風致の發見されるやうな地にホテルの設備を施した位のことは、到底外客をして日本に足向けしむることは出来ない。茲に於てか眞に外客を招かうと思へば、自動車道路を開設するのが最も捷徑であらうと思ふ。現に歐洲の各國に米人の旅客が多いといふことは、自家所有の自動車を驅つて歐洲大陸を巡遊し得るといふ事が大なる原因となつて居るのである。

彼の税關の關所があつて種々面倒なる手續があるにも拘らず、年々米國より自動車を携へて歐洲に渡る者が數萬の多きに達して居る。さうして一方歐洲大陸に於ては到る處道路が貫通して居り又大西洋航路に於ける船舶は自動車を簡便に運び得るやうに設備されてある。又リバプール、ハンブルグ等の港に於ても、自動車を陸揚し駐泊するに相當した場所が設備されてある等、あらゆる施設を以て自動車利用者の便利を圖つて居る。此の設備あればこそ米人は自家用の自動車を携へて歐洲へ渡るのである。米國に於ても亦歐洲人の自動車を携へて米國に遊ぶ客を満足せしむべく、流石

に自動車の本場だけあつて、莫大なる金を投じて自動車道路を開設して居る。さればこそ東岸ボストンより米大陸を横断して太平洋沿岸まで自動車を以つて旅行する人は日に月に増加しつゝある状態である。

然るに我國に於てはどうであるか。外國に於て検査を受けた自動車が日本の領土に入れば、直に税金を徴收せんとする。或は検査を喧しく言ひ、税關の方針も頗る區々であつて、時と處とに依つて取扱を異にするといふやうな不便極まることをやつて居る。假に斯の如き不自由を忍んで自動車を携へ來るとしても、一たび上陸すれば其の自動車を驅るべき道路が無いといふ現状ではないか。ホテルを新設して美味なるビーフステーキを饗する位の設備を以てどうして外來觀光客を呼ぶことが出来るか。ホテルよりも先にすべきものは自動車道路である。

今東京市より碓氷峠まで幅員の十分なる舗装道路が貫通することになつたならば、夏季に於て輕井澤は外人を以て今日の十倍の殷賑を來さしめることも何等不可能事ではない。又富士山麓、五湖の眺望箱根の幽境は之を一周して僅かに二百二十哩自動車を驅るとすれば其の道程は僅々六七時間にして足るのであるから晝餐を濟して帝國ホテルを出發して、優に再びホテルで晚餐の卓に就くことが出来る。若し途中各所に散策して其の風光を滿喫するとしても一日を以つて足りる行樂地である。また例へば世界一周の觀光團を乗せた買切の汽船が横濱に寄港して、二日しか停船しないといふやうな場合には、今日の狀態では纔かに日光の自然美と繊細なる古代建築を探つたゞけで再

び船に乗らなければならぬ。斯の如き状態では、如何に低利資金が融通されても、其の低利資金を以て設備したホテルのみでは到底其の目的を果すことの出来ないのは、火を賭るよりも明かである。

嘗に日光、碓氷峠、富士山麓のみならず、東京附近に於ても、奥多摩の谿谷、三浦三崎、九十九里の海濱等外人を歡ばしむるに足る風光は決して稀しとしないけれども、先づ其の地に到るべき自動車道路を開設せずして、一ホテルの設備を以て外客を誘致せんとするが如きは、誤れるも甚しいと思ふ。

由來米人は勇壯快活なる觀光を好んで、我が國民の如き四疊半式の歡樂は之を表面的に希望しないのが、彼等の習慣であり儀禮である。故に能く其の嗜好に適する快活なる觀光施設を施すならば我國の如きは外國人をして表裏共に楽しませしめ得る天與の風光と民俗とを有して居るのである。然るに世人は頗る見當違ひの議論を主張し、又不完全なる設備にのみ力癪を入れて居ることは、吾輩の甚だ遺憾とする所である。

### 三 失業救済と自動車道路

更に一轉して現下重大なる社會問題化しつつある失業救済の方策より考へても、今日の如き經濟状態に在る我國としては、社會問題解決の一方策として道路改良の事業を起すことは、寔に已むを得ざる必要事であると信ずるのである。

然れども今若し失業救済の理論より之を論ずるならば、前項觀光客誘致策に於けると同様に、近代

の最も不經濟的な經濟政策として吾輩の好まざる所である。何となれば失業者を救濟するといふ語は自から慈善的意味を多く有して居つて、其の裏面に於ては非常に弊害を醸す語である。斯の如き言を以て國民を馴致することは甚だ面白からざる事である。英國が失業保險を實施し或は老朽恩給法を定めた結果は莫大なる豫算を計上するの餘儀なきに至つたのみならず失業救濟保險の如きは多くの家族を有する者は失業して居れば一週三十五志以上の給付を受け得るが就職すれば三十志以下の收入しかないといふやうな變態現象が起つて、其の收拾に甚だ困難して居る有様である。抑々人の業務といふものは、主義として自由競争に委すべきもので、救濟的に施すべきものではない。例へば往昔の思想は、乞食が門口に椀と袋を持つて立てば、之に對して直接何程かの金品又は食餌を與ふることが慈善事業であり、人として當然の道であり、又困窮者救濟の唯一の方法であると考へられた。けれども最近に至つてはそれは寧ろ罪惡であるとせられて、慈善事業を組織化して所謂社會事業と稱して之を一箇所に集めて節度ある救濟方法を講ずることが眞の慈善であるといふことが明かになつて來た。其の爲に歐米でも日本でも近來は物乞ひといふものは殆んど絶対に無くなつたのである。曾つて養育院や癩患者收容所が設けられない時代には、東京市中は乞食を以て満ちて居つた。又歐洲に於ても千八百年代に於ては、十字架を頸に懸け耶蘇の念佛を口に唱へて物を乞ふ者が到る處に満ちて居つたことであるが、今はそれを見ることが出來ない。是は即ち其の裏面に相當の團體があり、相當の設備があつて之を救濟して居る結果に外ならない。漫然と慈善を



施してやるのが良いか、組織ある救済方法を設けるが善いかといへば、問はずして其の後者にあることは明かである。

近時失業者が簇出するから之を救済する爲に道路改良事業を起して彼等に職を與へよといふ議論が行はれて居るが、失業者は絶えず増加するものである。經濟の原則たる適者生存して不適者が落伍するといふ自由競争の原則を撤廢してしまつたならば、社會の進歩は阻碍せられて、世の中は遂に慘憺たる状態に陥るの外はない。故に單に理論を以て言へば、失業救済の爲に土木事業を起すべしといふが如き議論は、甚だ誤れるものであると思ふ。

併しながら我國の經濟状態を以てし、又現下の社會状態を以てしては此の際思ひ切つた道路工事を起して以て失業者を救済するといふことも亦寔に已むを得ない事であると信するのである。唯茲に吾輩の特に言はんとする所は、失業救済の爲に起さるべき道路改良工事は、宜しく産業開發道路であり、觀光自動車道路であり、さうして是が全國的に施設せらるべきものであるといふことを忘れてはならぬ。僅に幅員二、三間の舊式の道路を開鑿するに止まつたり、或は眞に失業救済のみの目的に依つて不急の地方に工事を起すが如きは、國家の賊である。宜しく此の際の道路工事は、一時間四十哩のスピードを以て馳走するに足る自動車道路として設計せられるにあらずんば、縱令一時の失業者は救済し得るとも、爲に何等運賃の低減を促さず、交通の敏速を圖り得ず、舊態依然として徒に荷車大八車の跋扈する所となり、近代道路としての効果を收めることは出来ない。果して然らばそは

所謂困窮者救済の慈善事業に止まつて、國家社會の發展上一顧の價値の無いものになると思ふ。宜しく政府は此の點に鑑みる所あつて、此の際百萬圓の工費を以て竣成すべき舊式の道路があるならば、百五十萬圓を投じて當初より完全なる自動車道路として設計すべきである。さうすれば沿道の生産物は忽ちにして大都市に輸送することが出來、運賃も三分の一に低減せられ、爲に都會の生活者も其の餘澤を受け、地方農家も其の生計に安んずることが出来る。宜しく斯かる意味に於て道路の設計をされなければならぬと信するのである。

#### 四 自動車工業と道路の開設

以上述べ來つた如く自動車道路の開設は現下の急務であるが、斯くして全國的に適當なる自動車道路の普及を見ることになる。茲に當然促されて來る問題は自動車工業の發達である。今日我國に於ては正確なる統計は無いが、十萬臺以上の自動車が使用せられるに至つて居る。さうして其の需要車は、家用は最近の不況に伴つて稍々減少する傾向があるけれども、乗合自動車、貨物自動車は年と共に増加する一方である。殊に失業救済の爲に各種の土木事業でも起されるとなれば、それ等の工事材料の運搬には多數の自動車を使用せられなければならぬ。斯くして貨物車、乗合自動車の利用の増加に伴つて、將來我國に於ける自動車が今日より以上臺數を増加すべき趨勢に在ることは否定が出來ないのであるから、隨つて是は我國自動車工業の發達を促進する原因となる。即ち自動

車道路の開設は、今日世界各國が視て以て羨んで居るところの現代式一大産業の開發を促すことになるのである。

自動車工業の發達は、自動車道路の普及と兩々相俟つて進まなかつたならば、假令昨今傳へらるゝが如く、政府が自動車工業助成の爲に年々五百萬圓の補助金を支出した所が、眞の發達を見ることは出来ない。故に自動車工業に補助する金あらば、寧ろ之を自動車道路の開設に補給した方が、眞に自動車工業の發達を誘致する所以であらうと思ふ。

尙ほ近來自動車の利用が大に増進されて來た結果、其の必要に迫られて所謂自動車専用道路と稱するものが各所に出願せられて居るが、政府は道路行政上深甚なる考慮を拂ひつゝあり、未だ許可されざるものが多いと聞くのである。吾輩の理想から言はしむれば、自動車専用道路といふ語ほど滑稽な語は無い、抑々今日の道路は自動車を使用すべきものである。現代の機械發達の世の中に、人間のみの歩く道路とか荷車を輓いたり牛馬を逐うて行く道路に多大な金を投ずる必要はないのである。又自動車専用道路なるものを民間をして開設せしめて置いて將來政府が之を買上げるといふことになる、徒に並行線を作つて土地の繁榮を所々に轉々せしむるといふ弊害が起つて、地方の發展と共に一種の恐怖心を人心に與へる結果を惹起すから、是は決して褒むべき方策ではない、極言すれば専用自動車道路の如きは如何にも智慧の足らない道路政策であると謂ふべきである。

是等に就ては政府は宜しく道路政策に關する根本方針を確立して、現在の國道を世界竝に擴張し

道路とは自動車の通行すべきものである。否、寧ろ將來は自動車の専用すべきものであるといふ域にまで達せしめなければ、我國の經濟的發展は見る事が出来ないと思ふ。

幸に吾輩の所論が實現せられて、速に自動車道路が開設せられたならば、自動車工業の如きは何等政府の補助を俟たずして、隆々たる發達を見るやうになるのである。

## 五 結 論

凡そ一國の道路を觀れば、以て其の國の文明の程度が判斷せられるのである。今日世界の先進國として誇りつゝある歐米各國皆然りである。抑々歐米人は非常に旅行を好む習慣があるので、其の自然の必要に基いて道路が良く開鑿せられて居るのである。曾て安政萬延の頃、我國に初めて英國公使として駐在して居たアルコック (Alcock) といふ人があるが、非常に旅行が好きで頻に各地を旅行した。丁度當時は今日の支那の内地を旅行する者が護票を貰つて行くやうに、外出には護衛の兵士が附くやうな状態であつたにも拘らず、東西に旅行した。さうして三年間に互る日本内地の見聞を書いた記行文の中に、東海道を旅行して、

日本の道路の完成して居る點に於ては古の羅馬と匹敵するものがある。道路に於ては日本は偉大なるものである。恐らく歐洲に於て最も優れたるものゝ一に比すべきものである。路幅もあるし、管理も行届いて居るし、坦々として行く所砥の如く、東海道を貫通する帝國の主要道路は並木

を以て日光を遮り、日陰を作つて居る、實に大に稱讚に價する。

と言つて居る。封建時代三百諸侯の參勤交代に道路のほか交通の用に供するものが無かつた時代に於ては、駕籠を擔ぎ、兩掛を運ぶ爲に、歐洲の先進國に比して遜色が無いと評された我國の道路が、王政復古して明治の昭代となるや、鐵道軌條の延長に唯維れ急にして道路は全く閑却せられ、今日に及んで近代交通要具の間に合はない道路のみとなり、動もすれば世界各國の嗤笑を招かんとして居ることは、先人に對しても甚だ慨嘆すべき事ではないか。吾輩が聲を大にして我國に於て最も後れて居るものは道路であると斷言する所以である。

